

兼六園歳時記



特別名勝 兼六園

**開園時間** 3月1日～10月15日 7:00～18:00 (最終入園 17:30)  
10月16日～2月末日 8:00～17:00 (最終入園 16:30)  
※観桜期や紅葉期などライトアップ(夜間開園)を行っています。

**入園料** 【個人】・大人(18歳以上) 320円 ・小人(6歳～18歳未満) 100円  
※65歳以上無料  
【団体】・大人(18歳以上) 250円 ・小人(6歳～18歳未満) 80円  
※有料対象者30名以上



時雨亭

江戸時代の御亭を再現

**利用時間** 9:00～16:30 (最終入亭 16:00)  
※12/29～1/3はお休みです。

**料 料** 【抹茶】 800円 (和菓子付)  
【煎茶】 340円 (和菓子付)



**【路線バス】**

- JR金沢駅東口から[兼六園下・金沢城]下車 桂坂口
- JR金沢駅東口から[広坂・21世紀美術館]下車 真弓坂口

**【タクシー】**

- JR金沢駅から4km、約10分
- 北陸自動車道 金沢西ICから約30分
- 北陸自動車道 金沢本ICから約20分

園内に駐車場はございません。近隣の有料駐車場をご利用ください。  
障がい者用駐車場は隣接する「いしかわ生活工芸ミュージアム」にございますので、ご利用の際はあらかじめご連絡ください。 TEL:076-262-2020

石川県金沢市・兼六園管理事務所  
金沢市丸の内1番1号 TEL(076)234-3800

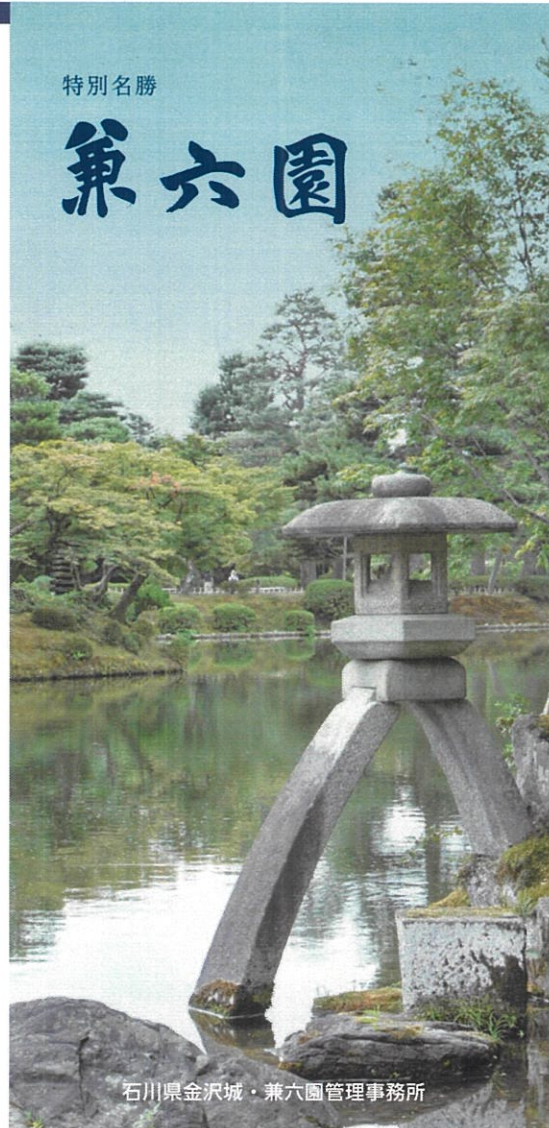
ガイドシステムをご利用ください

金沢城・兼六園 現地解説 金沢城ARアプリ

詳細な解説や貴重な古絵画がご覧いただけます。  
QRコードからインストール  
4カ国語(日・英・中・韓) 音声ガイド対応  
お問い合わせ: 石川県金沢城調査研究所  
kncastle@pref.shikawa.lg.jp

特別名勝

兼六園



石川県金沢市・兼六園管理事務所

沿革

兼六園は江戸時代の代表的な林泉回遊式大名庭園の特徴をそのままに残しています。

加賀藩5代藩主・前田綱紀が1676(延宝4)年、城に面した地にあった作事所を城内に移し、蓮池御亭を建て、その周辺を作庭しました。これが本園の始まりで、当時、蓮池庭と呼ばれていました。

12代藩主・斉広は1822(文政5)年、東南の平坦な千歳台一帯に豪華な隠居所「竹沢御殿」を建造し、その庭には辰巳用水を取り入れて曲水をつくり、各種の石橋を架けました。この年、「兼六園」と命名されました。

竹沢御殿完成後、わずか2年で斉広は死去し、13代藩主・斉泰は、御殿を取り壊し、露ヶ池を掘り広げ、曲水の新たな取り入れも行い、以前からあった蓮池庭と調和するよう作庭しました。こうして、今にみる雄大な回遊式庭園の基本的な構図はできあがりました。

廃藩後、1874(明治7)年5月7日、兼六園は一般開放されました。1922(大正11)年3月8日に「史跡名勝天然記念物保存法」の規定により、「名勝」の指定を受け、さらに、1985(昭和60)年3月20日、「特別名勝」となりました。

園名の由来

中国の古典「洛陽名園記」の「湖園」を解説した一節を引用して命名されたものです。庭園では六つの優れた要素を兼ね備えることは本来難しいが、この庭園にはあるという意味が表現されています。

園園の勝 相兼ねる能わざるは六  
「宏大」を務るは「幽邃」少なし  
「人力」勝るは「蒼古」少なし  
「水泉」多きは「眺望」難し  
此の六を兼ねるは惟湖園のみ

宏大	広々としていること	↔	幽邃	人里離れて物静かなこと
人力	人の手が加わっていること	↔	蒼古	昔からの自然が感じられること
水泉	水の流れや池、滝など水が豊かなこと	↔	眺望	遠くを眺めることができること

兼六園ではこの六つを六勝として大切にしている。

六勝の中でも特別なものとは?

**【水泉】 今も生きる辰巳用水**  
大火を機に3代藩主・利輝は、金沢城の防火や堀を満たすための用水として、1632(寛永9)年に辰巳用水を造りました。  
標高50mの台地の先端にある故へ水を送るため、犀川の11km上流から隧道と開渠を台地に沿って勾配を取りながら整備し、水を引きました。  
辰巳用水は、今も江戸時代そのままの隧道を流れ、兼六園へ、金沢城へ、そして金沢の街へと清らかな水を送り続けています。

**【人力】 六勝を作り上げてきた人の力**  
池や水の流れ、大きくうねるような姿の名木、庭と一体となった周辺の山々の眺望、突然現れる山中の渓谷のような自然風景等々、全て考えられ、人の手「人力」によって作庭されました。  
もうひとつの「人力」それは、長く庭園を見守り、兼六園に代々伝わる技を生かしながら、美しさに磨きをかけている兼六園専属の庭師たちの力であり、また、日々美しい苔の管理、除草にあたる作業員たちの力です。

## 加賀藩の繁栄と平和への願いを込めて

兼六園は神仙思想が基盤となった庭園とされています。霞ヶ池や瓢池に浮かぶ島は神仙島を表すとされ、島には仙人が住み、不老不死の靈薬があると言う思想が込められています。ほかに世継ぎの誕生を願う陰陽石を配した鶺鴒島など、作庭には藩主の長寿や永劫の繁栄への願いを感じることができます。



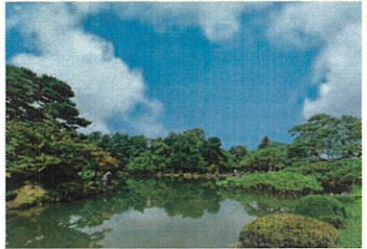
### 1 御鈴灯籠(ことじとうろう)

霞ヶ池にそと足を下したような美しい姿。足が琴の糸を支える琴柱(ことじ)に似ていることからその名が付いたと言われ、琴に見立てた虹橋と合わせ、兼六園を代表する景色となっています。



### 2 唐崎松(からさきのまつ)

13代藩主斉泰(なりやす)が、近江八景の一つ琵琶湖畔の鶺鴒神社から松の種子を取り寄せて育てたもの。兼六園のなかで最も枝ぶりの見事な黒松で羽ばたく姿を思わせます。北陸の重い雪による枝折れを防ぐためにほどこされる雪吊りも兼六園ならではの風物詩です。



### 3 霞ヶ池(かすみがいけ)

兼六園の中央に位置する園内最大の池です。この池には、神仙島を表す蓬萊島が置かれ、御鈴灯籠、唐崎松、松、親不知など名勝が記されており、回遊しながら移り変わる景色を楽しむことができます。

池の東側に立つと、右に唐崎松、左に蓬萊島が見え、巨大な亀の頭を表す石を据えた蓬萊島と鶴が首を伸ばし、翼を広げ今にも飛び立ちそうな唐崎松の対の姿「鶴龜」は、長寿で縁起のよい生き物としてここに表されています。



### 4 雁行橋(がんこうばし)

龍が空を飛んで飛んでいく姿を表しています。11枚の赤戸室石一枚一枚が龍の甲の形をしていることから「龍甲橋」とも言われ、この橋を渡ると長生きするとされてきました。戸室石は金沢の東方にある小さな火山によって出来た石材です。



### 5 七福神山(しちふくじんやま)

江戸時代から日本で信仰されている七福神(7人の神様)に見立てた自然石が置かれています。12代藩主斉広(なりなが)が書院から眺めるために作られたお庭です。七福神山と親水の流れ、卯辰山の借景が一つの美しい景色を見せています。

### 見て歩きルート

— 六勝コース(60分)

..... 平たんコース(車イスおすすめ)

(車イスおすすめ)



### 6 根上松(ねあがりのまつ)

13代藩主斉泰(なりやす)が末森城跡から抜き取ってきたといわれる松です。土を盛り上げた上に植え、成長後に土を除いて根を露わにしたものと伝えられています。大小40数本の根が地上2mにまでせり上がり、地を覆んだような奇観はたいへん迫力があります。



### 7 明治記念之標(めいじきんのひょう)

日本武尊(やまとたける)像を据えた明治記念之標は、西南戦争で戦死した郷土軍人の霊を慰めるために1880(明治13)年に建造されました。銅像の高さは5.5mで、仏像以外では日本で最初に建てられた銅像と言われています。



### 8 鶺鴒島(せきれいじま)

この島は人生の3大儀式である「誕生」を表す陰陽石、「結婚」を表す相生の松、「死」を表す五重の塔が配置され、人の一生を表しています。この島の名は、13代藩主斉泰(なりやす)が、古来、子孫繁栄の象徴である「鶺鴒」からつけたものと言われています。



### 9 曲水(きょくすい)

園内で最も標高の高い山崎山の麓から流れ出る水は約570mの曲水となり、庭を巡りながら霞ヶ池に注がれます。千歳台を巡る曲水の両岸には桜、ツツジ、カキツバタが植えられ、次々に花が咲き見事な影を映します。



### 11 瓢池・翠滝(ひさごいけ・みどりたき)

瓢池周辺はかつて蓮池庭(れんちてい)と呼ばれ、兼六園の作庭はここからはじまったと言われています。池の中ほどがくびれ、観車(きょうぐるま)のような姿がありその名があります。瓢池には高さ6.6m、幅1.6mの翠滝が注ぎ、水量豊富、滝音も大きく、目と耳を同時に楽しませくれます。蓮池庭の復興に努めた11代藩主治情(はるなが)は滝音が気に入るまで何度も作り直させたと言われています。



### 10 梅林(ばいりん)

1968(昭和43)年、明治百年記念事業として、北野天満宮、大宰府天満宮や湯島天神、水戸徳楽園などの協力により全国の名梅が集められました。八重重紅、摩耶紅梅、白加賀など約20種、200本の梅が植えられ、1月頃から開花し、2月〜3月頃に見頃を迎えます。



### 12 夕顔亭(ゆうがてい)

1774(安永3)年に建てられた園内で最も古い建築物で、当時のままの姿を今に伝えています。茶室内の壁には、夕顔(麗蓮の古名)の透かしがしつらえられています。翠滝の音を聞きながらお茶を楽しむ茶室は「滝見御亭」とも呼ばれました。



### 13 噴水(ふんすい)

13代藩主斉泰(なりやす)が金沢城二の丸に噴水を上げるため、ここで試作したといわれています。動力を使わず、霞ヶ池を水源とし、池の水面との高低差による自然の水圧によって高さ約3.5mで噴きあげられています。日本最古の噴水と言われています。

料金所	路線バス	オストメイト対応	入園者出入口
案内所	タクシー	喫茶	車イス貸出
お手洗い	駐輪場	売店・軽食	AED設置
多目的お手洗い	身障者用駐輪場	コインロッカー	関係者以外の立入はご遠慮ください